



〈連載(347)〉

## 遊覧船を追って東日本を列島縦断ドライブ



大阪府立大学 名誉教授  
池田 良穂

お盆の時期は、交通機関も宿も高くてかつ混雑するので、紀淡海峡が見える和歌山・加太の別荘で家族や友人と過ごすのが常なのだが、今年は新型コロナウイルス蔓延の影響でフェリーも観光地も疲弊していることから、ささやかながら地域経済活性化への貢献も兼ねて、各地の湖の遊覧船事情を調査する列島縦断旅行を計画してみた。今は、自宅からインターネットの予約サイトを使えば、日本中どこでも交通機関も宿も空いているかが瞬時に分かる。昔は旅行代理店に出向いたり、個々に電話で問い合わせたりしていたのだから、ずいぶん便利な時代になった。筆者が使っている旅行サイトは、かつて日立造船が社員の出張のために開発したもので、その後、一般向けサイトになり、今では大手ネット通販会社を買われてさらに大規模になった。

最近、新型コロナ禍で病人を乗せた救急車が、搬送病院が見つからずに何時間も待機というニュースがよく流れているが、ホテルの予約サイトがこんなに便利になっている時代に、あいもかわらず電話で1つ1つの病院を当たるといった映像をみると、なんと遅れていることかと思うのは筆者だけ

であろうか。即時に受け入れ可能な病院がわかり、そこまでの所要時間もナビが計算してくれるようなシステムを国が全国版として作れば、意外に問題は簡単に解決しそうに思うのだが。国がやれば県境も関係なく、迅速に最適な搬送ができそうに思う。

閑話休題。例年、お盆の時期には、こうした旅行サイトで検索しても思うようには予約がとれないのだが、今年は交通機関も宿もたくさん空いていて、北海道から大阪までの旅程を簡単にたてることができた。その行程は、

大阪→舞鶴→(新日本海フェリー)→小樽→富良野→サロマ湖→知床(ウトロ)→釧路→阿寒湖→然別湖→支笏湖→洞爺湖→大沼→函館→(フェリー)→青森→十和田湖→田沢湖→猪苗代湖→中禅寺湖→諏訪湖→八ッ場ダム湖→大阪

の11日間のドライブ旅行だった。さすがに長距離ドライブになるので、交代ドライバーとして家人も同伴しての旅行とし、全ての宿は2人共に大好きな温泉旅館にした。日本の多くの湖は火山活動でできたものなので、湖の近くには必ずと言っていいほど

温泉場がある。しかもどこの温泉宿にも空室があり、さらに破格の安い料金設定だった。こちらとしては嬉しいが、それだけ観光業は苦境に陥っているということであろう。心苦しいが、泊まれば多少のお役にはたつだろうと予約を入れた。泊まった温泉は、層雲峡→ウトロ→登別→洞爺湖→十和田湖→那須塩原→草津→下呂の順となった。

どのフェリーも宿も、新型コロナ対策をしっかりとっていて感心した。GO TO トラベルでコロナが広がったというのは本当なのだろうかと思うのは筆者だけではあるまい。ただし、さらに個人的には「ウイルスを体内に取り込まない」という視点でのコロナ対策を万全にした。他人と相對する時には、一般にいわれるマスク着用だけでなく、目を覆うメガネの着用、食事の時にはテーブルやフォーク・箸などのアルコール除菌を自分でもし、そして口や鼻に手をもっていき直前に手指のアルコール消毒を必ずすることを心掛けた。これでウイルスを体内に取り込むリスクはかなり下がるはずだ。食事自体にウイルスが付着している場合には感染の可能性は残るが、こればかりは料理人を信じて運を天に任せるしかなさそうだ。

### 新日本海フェリーの「はまなす」で小樽に

舞鶴を深夜23時50分に出港する新日本海フェリーの高速カーフェリー「はまなす」に乗船した。同船は、航海速力30ノットで、舞鶴と小樽との間を約20時間で結ぶ。ディーゼル駆動のプロペラの後ろにポッド推進器を置き、2つのプロペラを逆回転させることで二重反転プロペラを実現したユニークな船で、就航直後、同船の船上で「ポッド推進シンポジウム」を開催したことを懐かしく思い出した。

舞鶴の港には、たくさんのバイク、乗用車、キャンピングカーなどが並んでいて、船内も結構混んでいたが、それでもいつものお盆の時期に比べると少ないという。

翌朝、目覚めると船は能登半島の沖合の舳倉島の近くを航行していた。真っ青で静かな海は、夏の日本海らしい。見晴らしの良いフォワードサロンで航海を堪能した。

同船にはカフェテリア式のレストランだけでなく、ファストフードのカウンター、予約制のデッキでのジンギスカン、グリルでのコース料理も楽しめる。これもクルーズフェリーならではの船旅の楽しみだ。



「はまなす」の見晴らしの良いフォワードサロンからの日本海の光景



「はまなす」の車両甲板は乗用車、キャンピングカーで一杯だった。

### 小樽到着

小樽港は、かつては北海道の海の玄関口として栄えた港町で、札幌の外港に当たる。海運産業振興のために作られた運河が、今

は、観光資源となり、遊覧船も運航されている。乗客も船員さんも、みんなマスクをしているのがコロナ禍であることを示している。この運河めぐりの遊覧船以外に、港内遊覧船と積丹半島沿岸の遊覧船も運航されている。



小樽運河の遊覧船は夜も乗客で賑わっていた。

### 美瑛白金温泉近くの青の池

小樽から網走に向かう途中、美瑛の白金温泉にある青の池にはじめて寄った。山の中にある小さな池で、水面の色が太陽の出具合で変わる神秘的な雰囲気が、多くの観光客を魅了している。



美瑛の青の池

### サロマ湖

網走のサロマ湖は、オホーツク海と繋がる汽水湖で、ホタテの養殖が盛んな湖だ。稚貝を湖で育てて、その後、オホーツク海に放流して大きく育てている。ここには2隻の遊覧船があり、予約があれば船を出す

とのことであったが、訪問した日は予約がなく出港しなかった。この湖には観光スポットが少ないために、やってくる観光客が限られ、遊覧船の需要も少ないようだ。



サロマ湖の遊覧船「アザラシⅡ」(6.1トン)

### ウトロ

知床半島の付根に位置するウトロは、アイヌ語に漢字を当てはめて宇登呂とも書く。知床観光の基点で温泉地でもあり、さらに港からはたくさんの知床観光の遊覧船がでていいる。大型船では、知床観光船の耐氷型観光船「おーろら」姉妹が夏場にウトロ起点で発着しており、冬場は網走起点の流水観光船として運航されている。



ウトロ港に停泊する「おーろら」と「おーろら2」(490トン)

また小型の遊覧船は多く、知床遊覧船の「Kazu I」姉妹、フォックスの「Fox Five」、ドルフィンの「Dolphin III」、さらにカムイワッカクルーズやクルーザースターンの船などがあるが、訪問当日は台風くずれの低

気圧の影響で風が強く、全船欠航状態が数日続いており、各遊覧船のチケット売り場も閉まっていた。



小型の遊覧船が繋がれているウトロ港の一面

### 釧路港

道東の拠点港である釧路港には夕日観光船「Sea Crane」が運航されている。訪問当日は低気圧で大荒れの状態で欠航だった。乗場は、フィッシャーマンズワーフの対岸にある。釧路港は夕日が美しいことでも有名とのことで、世界の三大夜景にはいっているらしい。



釧路港の夕日観光船「Sea Crane」

### 阿寒湖



阿寒湖の遊覧船「すずらん丸」(222総トン)

まりもの生息で有名な阿寒湖(あかんこ)は、釧路の北の山の中にあるカルデラ湖で、湖畔にあるアイヌコタンや温泉が有名で、多くの観光客が訪れ、3隻の大型遊覧船が運航されている。

### 然別湖

阿寒湖の西の標高800m余りの山の中に然別湖(しかりべつこ)がある。火山の溶岩ドームで川がせき止められてできた湖で、まわりは東大雪山系の山々に囲まれている。湖畔にある温泉ホテルが19総トンの遊覧船を2隻運航している。阿寒湖から移動して然別湖に着いた頃には、雨もあがり美しい湖面となった。



ホテルの栈橋に停泊する「第1いさを」(右)と「いさを」

### 支笏湖



支笏湖の水中展望遊覧船「エメラルド」

支笏湖(しこつこ)は、今では北海道最大の港町となった苫小牧の北に聳える樽前山の麓にあるカルデラ湖で、2隻の遊覧船が

運航されている。コロナの影響で定員を半分にしての運航で、案内所では整理券を配って乗船人数をコントロールしていた。支笏湖は透明度が高く、船底には水中が見られるガラス窓があり、湖底の柱状節理やヒメマスなどの魚を見ることができる。

## 洞爺湖

北海道の道南地方にある洞爺湖(とうやこ)は、10万年前の大噴火によってできたカルデラ湖で、湖畔には活火山である有珠山と昭和新山が聳えており、温泉宿が軒を連ねている。遊覧船は「エスポアール」と「羊蹄」(ようてい)の2隻が運航され、予備船の「幸福」は湖の中に浮かぶ中島に係留されていた。



昭和新山をバックに航行する洞爺湖の遊覧船「エスポアール」

## 大沼



大沼の遊覧船群。公園内の橋の下をくぐることから、背の低いリパークルーズ船のような船型をしている。

函館の北にある大沼は、沼とはついていて水深は浅いが、湖なみに広い。大沼合同遊船が5隻の10~19総トンの遊覧船を運航している。

## ブルーハピネスで津軽海峡を渡る

函館から津軽海峡を渡って本州に行くルートは2本あり、青森との間に津軽海峡フェリーと青函フェリー、大間との間に津軽海峡フェリーの船が運航されている。今回は青森航路の津軽海峡フェリーの「ブルーハピネス」に乗船した。内海造船で建造された4隻の姉妹船の1隻で、乗船するのは初めてだった。



函館港の津軽海峡フェリーのターミナルは、車に乗ったままゲートを通してチェックインができる。



航海中はインサイドプロムナードのテーブル席で過ごした。

## 十和田湖

青森港でフェリーを降りて、八甲田山系の中を通り、奥入瀬(おいらせ)溪流の山道をひたすらドライブして十和田湖に到着し

た。途中は雲の中で、ずっと雨と霧の中での運転となった。湖畔の温泉旅館に宿泊すると、そのすぐ横に栈橋があり、3隻の遊覧船が停泊していた。



十和田湖の双胴型遊覧船「八甲田」三姉妹

### 田沢湖

秋田県の山中にある田沢湖では、遊覧船は修理中で運休中とのことで、2隻ともに陸上に上がっていた。多客期にもかかわらず、コロナ禍で運休せざるを得ないほどの状態になっているのであろうか。心配をしていたが、インターネットで調べると、9月以降には週末・祝日の運航を続けているようだ。



「高速艇たざわ」

### 猪苗代湖

福島県・会津磐梯山の南にある猪苗代湖(いなわしろこ)には、白鳥型と亀型の遊覧船が停泊していた。乗場は閉鎖中で、運転していた磐梯観光船が2020年7月に倒産

して、現在は地元の有志で遊覧船復活を目指してクラウドファンディングで資金を集めて、今秋の再開を目指しているという。新会社は猪苗代観光船。ぜひ、遊覧船の火を灯し続けるようにがんばって欲しいと願う。



「はくちょう丸」



「かめ丸」

### 桧原湖

会津磐梯山の北側にある裏磐梯と呼ばれる地域にある桧原湖(ひばらこ)では、2隻の遊覧船が猪苗代湖の遊覧船と同じ会社に



湖の一面に係船されている遊覧船「あづま丸」が遠望できた。

## 中禅寺湖

栃木県の観光地日光の近くにある湖で、高校の修学旅行で訪れて以来半世紀ぶりの訪問だった。有名な「いろは坂」を登ってから、湖面まで降りると、遊覧船の棧橋が現れた。ちょうど遊覧船「けごん」がやってきて、乗客を乗せて湖上遊覧へと出港していった。他の2隻の遊覧船は運休中で、隣の港で係留されていた。



中禅寺湖の遊覧船「けごん」。当日は1隻だけの運航だった。

## 八ッ場ダム湖

建設途中で、政治的な思惑から工事が止まった群馬県の八ッ場(やんば)ダムは、その後工事が再開され2020年に完成して運用が始まった。ダム湖の正式名は八ッ場あがつま湖といい、観光用の水陸両用バスが運行されていた。



道の駅の発着場で待機する水陸両用観光船

## 諏訪湖

2017年に最終号が発行された「フェリー・旅客船ガイド」によれば、長野県の諏訪湖(すわこ)には、3社の会社が遊覧船を運航しているはずだったが、訪れてみると1社も運航していなかった。帰宅後にインターネットで調べると諏訪湖観光汽船が、土日・祝日に1日4便の運航を続けているようだ。



諏訪湖観光汽船の「すわん」(99トン)と「スワコスターマイン号」

## 最後に

以上のように、北海道から東北、甲信越まで湖を巡って遊覧船の現状を見ることができた。

国交省の統計によると、遊覧船等の旅客不定期航路事業は、2019年の時点で1252航路、1131隻、575事業者となっており、この15年ほどの間で漸増しており着実な成長傾向を示している。利用客数は2019年度に940万人であり、最も減少した2011年の720万人をボトムにして増加に転じている。

しかし最も身近な船旅を提供する遊覧船事業も、コロナ禍で国内旅行者もインバウンド客も減少したため疲弊しているのが、この旅で実感できた。少しでも早くコロナ禍が終息して、観光事業が復活して欲しいと切に願う次第である。